

おもてなしの
心裁



取締役広報部
アートディレクター 山田悦子さん

海外ではふろしきを初めて見ると
いう人も多いのですが、ワークショッ
プなどを開くと、求める用途によつて
形を変える「賢い布」「美しい布」だと
言つて、たいへん興味を持ってしてくれま
す。私たちは生活文化の一部としてふ
ろしきを長く使つてきたはずなのに、
今では反対に海外のお客様からその



一枚の布に 思いやりの 心を包んで

こころを込めて 我が社のおもてなし

山田繊維株式会社 むす美京都

代表者／山田 芳生
住 所／京都市中京区三条通堺町東入樹屋町67
T E L ／ 075-212-7222
U R L ／ <http://www.kyoto-musubi.com/>

価値に気づかされることも多いで
すね。『包む』ことは、相手を思いやる心
の表れにほかなりません。東京オリ
ピックなどが予定され、世界中の目が
日本に向いています。改めて私たち自
身がふろしきの魅力を再認識し、日
本人が紡いできた心を伝えることで、
おもてなしを広げていきたいと考
えています。

目の覚めるようなカラフルな色使い、思わ
ずくすつと笑つてしまふ愛らしいデザイン
。明るくオープンな店内で、まるでアート
作品のように美しいふろしきを眺めている
と、心がわくわくしてきます。

ライフスタイルが変化する中で、「私たち
がふろしきに合わせるのではなく、暮らしの中
に取り入れて楽しんでほしい」と山田さん。
たった一枚の布ですが、何かを『包む』だけ
なく、端と端を結べばバッグになるし、ワイ
ンボトルやティッシュ箱のカバー、肩にかけ
ればショールとしても使えます。接客レス
がもてはやされる時代、店に来られたお客様一
人ひとりに寄り添う時間を大切にし、店内
のワークショップや地域に赴いて講習会など
を定期的に開催しているのも、ふろしきに触
れる機会を増やして、モノではなくその背景
にあるコトとしての魅力を伝えたいと考えて
いるからです。

荷物をたくさん入れても、紙袋のようにガ
サガサ音がしない。ふろしきは周りの人に配
慮が行き届いたものだったんですね。そう
言つてくれたお客様がいたそうです。自分自
身がふろしきを使うことで、見えてくること
がたくさんあります。「日本人が培つてきた
美意識や精神文化にも改めて気づいてもらえ
たら」と山田さんは目を細めます。

さあ、今日は何を包みましょうか？ 大切な
あの人へ、ふろしきがお届けするのは相手の
ことを慮る皆さんの心に違いありません。